

小学校第5学年3組 家庭科学習指導案

【日時】令和4年11月1日(火) 11:00~11:45 【場所】家庭科室 【指導者】渡島 優衣

本授業の主張点

児童が、掃除の試し活動を通して、掃除前後の違いを比較したり、現在の自分ができることとできないことを分類したりするなかで、「〇〇ができるようになりたい」「どうしたらいいだろう?」などの思いをもつ、“学びの主体が立ち上がる姿”をお見せします。

1 題材名 物を生かして 住みやすく

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材「物を生かして 住みやすく」では、B(6)「快適な住まい方」ア(イ)と、C(2)「環境に配慮した生活」イとの関連を図って構成する。課題をもって、健康、快適、安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、快適な住まい方に関する知識及び技能を身に付け、住生活の課題を解決する力を養い、住生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することをねらいとしている。住生活の住まいについての本題材での学習は、第6学年の季節に合わせた住まい方や、中学校の住居の機能、安全な住まい方にも繋がっていく。気持ちよく生活するために、住まいの整理・整頓や清掃が必要であることが分かり、身の回りの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできるようにする。家庭ごとに家の間取りや清掃の仕方が異なるため、まずは児童が普段当たり前のように行っている学校の整理・整頓や清掃の仕方について見直しをする。また、児童会の提案で今年度11月から始まる「なかよしそうじ(縦割り班ごとに校内の清掃活動)」を見越して、何のために掃除をするのかを考える。汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方、状況に応じた清掃の仕方を考えたりして工夫し、適切な清掃ができるようになることで、家庭生活でも生かそうとする姿を期待する。

(2) 児童について

本学級の児童は、「整理せいとん係」からの呼びかけで水筒の紐を水筒に巻きつけてから片付けをしたり、靴箱の靴ならべて校内上位にランクインしたりするなど、普段から整理・整頓を心がけている。また、「なかよしそうじ」の開始に向けて清掃に対する意欲が高まっている。学校において、どれくらいの頻度で清掃をする必要があると思うかについてのアンケートを行ったところ、最も多かったのは50%(34名中17名)の「2~3日に一度くらいは必要」で、44%(15名)が「毎日必要」だと答えたことから、児童が身の回りをきれいにし、気持ちよく生活したいという強い思いをもっていることが分かる。その一方で、「清掃をしてもどうせ汚い」「すみずみまでしようと思うが、小さなほこりなどは気にならない」「あまり使わない所はどうでもいい」など、清掃活動を前向きに捉えていない児童も18%(6名)いる。実際に清掃後の清掃場所を見てみると、教室のすみや教卓の周りは砂やほこりが残ったままであることが多い。一度ほうきで掃いてきれいになったところに、別の児童がほこりやごみを掃いてきて、再度同じところを掃かなくてはいけないことになることもあり、効率的に清掃ができていたと言いはない。アンケートに「清掃の仕方がいまいちわからない」「力強く掃く」「角から先にして、外側から内側に掃く」といった清掃の仕方を答えた児童もあり、清掃の仕方についての理解は課題が残る。

(3) 指導について

指導に当たっては、児童が学習した知識や、活動を通して習得した技能や気づきを活用できるように、振り返りをもとにして課題解決に向けた実践の計画を立てていく。そのために、資質・能力開発ポートフォリオを活用する。学んだことや振り返りをいつでも見ることができるようにすることで、自己の変容を実感したり、自分の課題を意識したりすることができるようにする。

第一次には、清掃の試し活動をする。家族が清掃で苦勞をしている場所や、学校の中で汚れていると感じている場所を、自分たちの力できれいに清掃をすることができるのかをやってみることで、今の清掃の知識や技能で、どこに疑問や問題を感じるのかを明確にする。そこで、理想と現実のギャップに気づくことができるようにする。そこから、課題に向き合い、一人一人が自分なりの思いや意欲をもつよ

うにすることで、主体が立ち上がるようにする。第二次では、話し合い活動を取り入れ、児童同士で整理・整頓や清掃の仕方や工夫を学び合うことができるようにしていく。また、清掃の実践を通して学んだ知識・技能が役立つことを感じることで、これからの清掃活動や家庭生活でも活かしていこうという意欲をもたせたい。家庭での実践についても、資質・能力開発ポートフォリオを活用して、家族からアドバイスやコメントをもらうようにすることで、学んだことを家庭生活に繋げたり、各家庭での清掃の知識や技能の継承を図ったりする。第三次では、汚れを放っておくことで、洗剤などの化学製品をより多く使う必要があることから、「持続可能な社会の構築」の観点をもとに、清掃の仕方について再考する時間を設ける。こまめに清掃をすることで、自分自身も気持ちよく過ごすことができ、環境にもやさしいことに気づかせ、日ごろから清掃をしようとする態度を育てたい。

(4) 深い学びについて

家庭科における深い学びの実現に向けて、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせること、試し活動をする事で主体を立ち上げること、他者との交流や助言から考え方を広げたり深めたりすることを大切にする。本題材で働かせる「生活の営みに係る見方・考え方」とは、「環境に与える影響に配慮しながら、気持ちよく過ごすために、他者と実践の計画や結果を、分類したり比較したりして、よりよい住まいになるよう工夫すること」である。課題解決のために、他者と活動の結果を比較することでヒントをもらったり、評価やアドバイスをもらったりすることで、新たな気づきを得たり家庭科において育成を目指す資質・能力を高めたりしていく。以上のことを踏まえ、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら学ぶ本題材及び本時における児童の姿を、全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿と関連させると、表1のようになる。

表1 本題材で目指す「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本題材及び本時における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	主体が立ち上がり、課題の解決に向けて毎時間学習を進めていくことで、課題ごとに自分の課題を把握し、根気強く解決に向けて学習に取り組んでいる。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて、よりよい清掃の仕方を再考している。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	よりよい整理・整頓や清掃の仕方を考える中で、他者と活動の結果を比較したり気づきを結び付けたりしながら、実践の計画を練ることができている。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	学習を通して学んだ整理・整頓や清掃の仕方のよさを感じ、今後の家庭生活に生かそうとしている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	体育科保健領域「毎日の生活とけんこう」や、清掃の経験を思い出し、気持ちよく過ごすために、身の回りをきれいにしたいという思いをもっている。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

住まいの整理・整頓や清掃の仕方に関心をもち、学習した知識や技能を活用したり、環境への影響を考えたりしながら、整理・整頓や清掃の仕方を工夫する能力や態度を育てることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 【知・技】

イ 住まいの整理・整頓や清掃の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。

【思・判・表】

ウ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。 【主】

4 題材の指導計画（全10時間 本時2/10時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一	家族から家の清掃で大変な場所や、きれいにしたいところについてインタビュー活動をする。			
	1	○問題をつかみ、題材を貫く問いを設定する。	・インタビューの内容や日常の振り返りから清掃が必要な場所を確認する。 ・児童の思いをもとに、題材を貫く問いを設定し、資質・能力開発ポートフォリオに記入するようにする。	◆家族の一員として、生活をよりよくしようと、清掃について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。【主】
	2 本時	○試し活動を行い、一人一人が課題を設定する。	・清掃の試し活動を感じたことを資質・能力開発ポートフォリオに書くようにする。 ・児童の考えや疑問を分類して板書にまとめることで、清掃における課題を明確にする。	◆整理・整頓や清掃に関する問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて見通しを立てている。【思・判・表】
二	3 4 5 6 7	○引き出しの整理整頓を行う。 ○学校内の汚れの正体を調べる。 ○清掃の手順や仕方について理解し、技能を身に付ける。 ○清掃をする。 ○おそうじ大作戦の計画を立てる。	・発表から整理・整頓の仕方の工夫点をまとめ、共有する。 ・テープで汚れを集めたり虫眼鏡で拡大して見たりするように促す。 ・フローチャートと付箋紙を活用して清掃の手順を整理する。 ・環境に配慮した清掃をしようとしている児童を取り上げる。 ・汚れの種類に合った清掃や、時間配分ができているか問いかける。	◆住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解していると、適切にできる。【知・技】 ◆住まいの整理・整頓や清掃の仕方について見直したり調べたりして、清掃計画を考え、工夫している。【思・判・表】
	昼清掃の時間に実践する。気づきや学びなどを資質・能力開発ポートフォリオに書くようにする。			
	8	○実践を行い、活動を振り返る。	・汚れにあった清掃の仕方について理解できるようにするために、発表するときの観点を示す。	◆おそうじ大作戦について、実践を評価・改善し、考えたことを表現している。【思・判・表】
三	9	○家庭のお清掃大作戦の計画を立てる。	・環境に配慮して計画を立てるために、ごみの量や使用した洗剤や水の量などを振り返る。	◆汚れの種類や汚れ方に応じた清掃計画を考え、工夫している。【思・判・表】
	家庭で清掃の実践をする。気づきや学びなどを資質・能力開発ポートフォリオに書くようにする。			
	10	○報告会を行い、題材全体の学びを振り返る。	・気持ちよく過ごすための整理・整頓や清掃の仕方の工夫点を全体で共有し、生活の中に生かそうという思いを高める。 ・問いに対する答えを資質・能力開発ポートフォリオに書くようにする。	◆更によりよい生活にするために、快適な住まい方について改善しようしたり、工夫し実践しようしたりしている。【主】

5 本時の指導（2/10）

(1) 深い学びの姿

学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	○
「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	○
知識が概念化し、知識の質が高まっている。	
学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	
他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	

(2) 指導目標

清掃の試し活動を通して、清掃の仕方に関して問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて学習の見通しをもつことができるようにする。

(3) 評価規準

イ 清掃の仕方に関して問題を見いだして、課題を設定することができているか。

(4) 「見方・考え方」を働かせる手立て

- ・「気持ちよさ」や「過ごしやすさ」の見方を働かせるために、清掃前のほこりが隅にたまっている状態の写真を提示する。
- ・「環境への影響を考える」見方を働かせるために、環境に配慮した清掃についての発言や気づきを書いている児童の意見を取り上げる。
- ・「活動前後における相違点を見つける【比較する】」考え方を働かせるために、活動前後で撮った写真を示し、きれいになった部分やきれいにならなかった部分はどこかを問う。

(5) 展開

学習活動と児童の反応 (□□□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 題材を貫く問いを確認し、本時の活動のめあてをつかむ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が片づいている方が気持ちよく過ごせる。 ・整理・整頓されている方が安全に過ごすことができるんだ。 	<p>1-(1) <u>整理・整頓や清掃をすることのよさを確認するために、整理・整頓や清掃がされている写真と、そうでない写真を提示する。</u></p> <p>1-(2) 題材を通して学ぶことを振り返るために、児童と題材を貫く問いを確認する。</p>
<p>掃除をして、これから学ぶべきことを明確にしよう。</p>	
<p>2 清掃の試し活動をする。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓みがきは、窓磨きが先？溝の清掃が先？ ・高いところの掃除は、雑巾を使って拭こうかな。 ・コンロ周りの汚れがなかなか取れないな。どうしたらきれいになるのかな。 	<p>2-(1) 課題を設定するための清掃の試し活動であることを確認し、困ったことや疑問に思ったことを覚えておくように伝える。</p> <p>2-(2) <u>清掃による変化を客観的に把握するために、活動の前後で清掃場所の写真を撮るよう促す。</u></p>
<p>3 清掃の試し活動の振り返りをする。(10分)</p> <p>(1) 写真を見比べ、清掃の出来具合を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓のレールの隅以外はきれいになっている。 ・コンロ周りの汚れがきれいになっているけれど、まだ汚れがとれていない部分もあるな。 <p>(2) 清掃をしてみたの気づきや課題を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものがぐちゃぐちゃで掃除がしにくかった。掃除の前には整理・整頓ができていないといけない。 ・窓のレールを拭いた雑巾が、砂やほこりでとても汚くなった。洗ってもあまり汚れが取れないな。 ・コンロの油汚れを拭いたらべたべたしたから、洗剤で洗ったけれど、環境にやさしくすることができていないな。 	<p>2-(3) 効率的に清掃に取り組むことを意識できるようにするために、清掃の手順を問いかける。</p> <p>3-(1) <u>清掃の仕方による環境への影響についても考えるようにするために、環境に与える影響について触れている児童の考えを取り上げる。必要に応じて、家庭科の窓の「健康・快適・安全」と「持続可能な社会」を提示する。</u></p> <p>3-(2) 汚れの種類によって、汚れが落ちやすいものと落ちにくいものがあることに気づかせるために、写真を見比べて電子黒板に提示する。</p>
<p>4 これからの学習の見通しをもつ。(10分)</p> <p>(1) 課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓と窓のレールをすみずみまで掃除ができるようになろう。 ・コンロ周りの清掃を環境にやさしい方法できれいにできるようにしよう。 <p>(2) 全体で課題解決のための学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れにあった掃除の仕方を学ぶ。 ・整理・整頓に取り組む。 <p>(3) 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも机の引き出しがをきれいにしていられるように、整理・整頓の仕方を身につけたい。 ・べたべたする汚れを掃除できるようになりたい。 	<p>◆ 清掃の仕方に関して課題を設定することができるか。 (発言、資質・能力開発ポートフォリオ) 【思・判・表】</p> <p>B 掃除をするときのポイント、疑問や知りたいことをもとに課題を設定することができる。</p> <p>C→ 掃除をしたときに、困ったことや悩んだことがなかったかを問いかけ、知りたいことを</p> <p>4-(1) <u>疑問や困ったことを課題に繋げるために、「これから気持ちよく過ごすには、どこをきれいに清掃できるようにになりたいか」を問う。</u></p> <p>4-(2) 学習計画を練るときの視点を示すために、迷ったり分らなかつたりしたことがないかを問いかける。</p> <p>4-(3) 児童の意見を取り上げ、これから学習することを整理することで、次時からの学習に見通しをもてるようにする。</p>